

フランス公開時ブニュエル、クローネンバーグと比較され、

賛否両論を巻き起こした問題作!

そして日本でもマスコミ試写を行うと、“試写拒否”“紹介拒否”の声のなか、映画を理解し、きちんと紹介してくれた方も!



もう男はほったらかしで、セックスよりもディープな苦痛/快楽のひとり遊びにズババマリ。皮膚を剥ぎ、肉を切り刻み、傷口をえぐる肉体との究極の対話。目をそらすことなくその一部始終を捕えた映像はショックキングで、映画祭では退場者続出。これが監督自身の体験から生れた作品ってのも衝撃だ。ちなみに監督はマリリン・マンソン好きのゴスっ娘。いかにも。

この映画がすごい! 神無月マキナ 0.24発売号より

自らの肉体を傷つけることで、エクスタシーを得る若いキャリア・ウーマンの加速する自身への肉体愛は、衝撃的で息も止まるほど。脚本・主演をこなす多才なドゥ・ヴァンだが、肉体への偏愛は、クローネンバーグ、ブニュエル級とも。

VOGUE nippon / 立田敦子 10.28発売号より

ヒロインを演じるマリナ・ドゥ・ヴァンの秘めたる狂気の程、表情、佇まい、迫ってきまみず。しかつめらしい分析や能書きがまとわりつきそうなる本作だが、んなことは不要なまでに完成度高い作品。『イン・マイ・スキん』。彼女の行方が気になって仕方ない。

S&Mスナイパー 10.28発売号より

この映画がこれほど人に不快感を与えるのはなぜか。いや、正確には違う。この映画が観客に与えるのは「不快感」ではなく「不安感」なのだ。自分自身の肉体を物体として扱うエステルの行動は、ダイエットやブチ整形に通じる、現代人の肉体観を反映しているようにも思える。エステルの行動に共感する女性性は、案外多いかもしれない。

映画瓦版 / 服部 弘一郎 <http://www.eiga-kawaraban.com/>より

私ノ皮膚ノ下ニ自分ガイール

イン・マイ・スキん

dans ma peau

マリナ・ドゥ・ヴァン 第一回監督作品

2002年/フランス、99分/カラー/1:1.85

監督/脚本:マリナ・ドゥ・ヴァン 出演:ローラン・リュカ、レア・ドリュウケール 製作:ロラン・ス・アラ

配給:アップリンク 宣伝/楽舎 協力:ユニフランス東京



www.uplink.co.jp

